

事務事業マネジメントシート(令和 2年度実績と令和 3年度計画)

令和 3 年 4 月 28 日 更新

事務事業名		放課後児童クラブ障害児受入事業				☒ マニフェスト関連 ☒ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連			
総合計画体系	政策	2 福祉の健康				所属部	健康福祉部	課長名	衛藤 文明
	施策	4 子育て支援の充実				所属課	子育て支援課	担当者名	宮崎 大輔
	施策の柱	16 子育てと仕事の両立支援				所属班	保育班	(内線)	1182
予算科目		会計一般	款 3	項 2	目 4	事業連番 11442	根拠法令	合志市学童クラブ等障害児受入事業実施要綱	
終了、開始年度		☐ 2年度で終了 ☐ 2年度から開始				事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 18 年度) ☐ 期間限定複数年度 (~ 年度)		

★事務事業の概要 (PLAN)

【事業の内容】	発達障害等の障害児を受入れている放課後学童クラブに対して、専門知識等を有する障害児対応支援員を派遣し、障害児の保育支援を行う事業。 放課後学童クラブで発達障害等の障害児を受入れる場合、これまでは障害児受入れ加算として学童クラブを運営している保護者会等への補助金に上乗せして補助していたが、国の制度変更により障害児の受入れ体制を強化するとして、専門知識等を有する障害児対応支援員を市が派遣若しくは育成することに変更されたため、この事業が必要となった。 さらに平成27年度より障害児を5人以上受入を行っている学童クラブに対して、専門的知識等を有する障害児対応支援員を複数配置することで放課後児童健全育成事業の円滑な実施を図ることを目的とし新たな事業が追加された。また平成29年度からは3人以上受入へ補助対象が拡大された。補助金の負担割合は国県市各1/3。
【業務の流れ】	①事業打合せ ②事業施行伺い ③事業委託契約伺い ④委託契約書締結 ⑤支出負担行為 ⑤実績報告書・請求書受付、審査 ⑥支出命令書
【主な予算費目】	委託料
【意見や要望】	放課後学童クラブにおける障害児の受入れ体制の強化について、議員からの一般質問がなされている。(H19第4回定例会) 学童クラブからも、発達障害の恐れがあるいわゆるグレーゾーンのこどもが近年急増しており、支援員の確保のためにはぜひ本事業を実施継続して欲しいとの意見が出ている。

1 現状把握の部 (DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分
①手段(主な活動) 2年度実績(2年度に行った主な活動)(DO) 市内学童クラブの25クラブのうち、障害児を受け入れた22クラブに委託した。 令和2年度においては3クラブが3人以上の障害児を受け入れた。		3年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN) 障害児を受け入れる市内学童クラブと委託契約を行い、専門的な知識を有した放課後児童支援員を配置する。
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位) 予算の主な増減の理由	
→ ア: 放課後学童クラブ数	クラブ	国・県補助金の交付基準額の増及びクラブ数増(令和3年:合志楓の森小第1、第2、第3、第4学童クラブ)に伴う委託料の増
②対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	②対象指標(対象の大きさを表す指標)	(単位)
→ イ: 学童クラブが受け入れている障害児数	→ ア: 学童クラブの受入れ障害児数	人
③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	③成果指標(意図の達成度を表す指標)	(単位)
→ イ: 安心して子育てができる。	→ ア: 障害児を受け入れている学童クラブ数	クラブ
*③成果指標設定の理由と 3年度目標値設定の根拠		総トータルコスト
障害児を受け入れている学童クラブに対して実施する事業であるため、学童クラブ数とした。		全体計画 ~ 年度
		0

(2) 各指標・総事業費の推移		単位	30年度実績(決算)	31年度実績(決算)	2年度目標(当初予算)	2年度実績(決算)	3年度目標(当初予算)	4年度予定	5年度見込	6年度見込
① 活動指標	ア	クラブ	21	23	25	25	29	30	31	31
	イ									
② 対象指標	ア	人	38	33	31	50	32	33	34	35
	イ									
③ 成果指標	ア	クラブ	20	20	22	22	28	28	29	29
	イ									
投 入 費 量	財 源 内 訳	国庫支出金	千円	14,368	14,166	18,469	17,360	22,166	21,547	21,547
		都道府県支出金	千円	8,045	14,057	18,469	17,359	22,166	21,547	21,547
		地方債	千円							
		その他	千円							
		繰入金	千円							
	(A) 事業費計	一般財源	千円	19,799	13,950	18,472	17,360	22,168	21,551	21,551
		(A)のうち指定経費	千円	42,212	42,173	55,410	52,079	66,500	64,645	64,645
		(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0	0
	人 件 費	正規職員従事人数	人	1	2	1	1	1	1	1
		延べ業務時間	時間	20	35	150	20	150	150	150
	(B) 人件費計		千円	78	138	597	78	597	597	597
	トータルコスト(A)+(B)		千円	42,290	42,311	56,007	52,157	67,097	65,242	65,242

事務事業名	放課後児童クラブ障害児受入事業	所属部	健康福祉部	所属課	子育て支援課
-------	-----------------	-----	-------	-----	--------

2 評価の部（CHECK）

*原則は 2年度的事後評価、ただし複数年度事業は 2年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	① 2年度目標達成度評価	☒ 達成した ☐ 達成しなかった ⇒【原因】 障害児を受け入れている学童クラブ全てに委託した。
	② 3年度目標達成見込み	☒ 目標達成見込みあり⇒【理由】 ☐ 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】 障害児を受け入れている学童クラブ全てに委託するため目標達成の見込がある。
有効性評価	③ 成果の向上余地	☐ 向上余地がある ⇒【理由】 ☒ 向上余地がない ⇒【理由】 障害児を受け入れに伴う県主催指導員研修等が年数回実施され、参加することによって指導員の質の向上に努めた。また、平成26年度より本市においても研修会を実施している。
	④ 類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある（具体的な手段、事務事業）⇒【理由】 ☒ 他に手段がない ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 放課後児童学童クラブで障害のある児童の預かりを行う事業であるため他に類似する事業がない。
効率性評価	⑤ 事業費の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 委託料は国の定める基準以内で設定している。
	⑥ 人件費（延べ業務時間）の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 最低限の職員で対応している。
公平性評価	⑦ 受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 事業の対象は障害児を受け入れる学童クラブ自体であるため、当該事業を行うことで学童クラブ全体の子どもの健全育成につながり公平・公正である。
役割分担評価	⑧ 行政の役割分担の適正化	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 役割分担は適正である ⇒【理由】 支援を要する児童の預かりであるため、責任の度合いが大きく役割分担は適正である。

3 評価結果の総括（CHECK）

障害児や発達障害の恐れがある児童がいる学童クラブに、県が実施する講習会に参加した専門知識を要する指導員を配置することで適切な支援ができた。また、本市においても障害児受入に関する研修会を実施した。

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（ACTION）

(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可					(2) 改革・改善による期待成果 （廃止・休止の場合は記入不要）																									
☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統廃合・連携 ☐ 事業のやり方改善（有効性改善）					<table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">コスト</td></tr><tr><td>削減</td><td>維持</td><td>増加</td></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>							コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
		コスト																												
		削減	維持	増加																										
成果	向上																													
	維持																													
	低下																													
☐ 事業のやり方改善（効率性改善） ☐ 事業のやり方改善（公平性改善）																														
☐ 現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）																														

(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策